

武庫川シンポジウム 計画案 (4 次案)

◇開催日程 6 月 17 日 (日) 午後 (第一候補) (ダメな場合は 6 月 24 日 (日) も検討)

1. テーマ 「武庫川づくりを考える——流域連携へ向けて」(仮)

2. 開催の趣旨

昨年 8 月提言を受けて県の整備基本方針の原案提示が 6 月末にも行われる見通しになっているが、武庫川づくりを進めていくためには流域住民の武庫川への関心と行動の高まりが不可欠である。具体的な整備計画とは別に、流域住民と諸団体、流域自治体の連携を生み出していくソフトづくりは緊急の課題である。流域のたしかな連携が培われていくことによって、流域対策はもちろん提言に盛り込まれた武庫川づくりの諸課題がスムーズに動きはじめることになる。

いま、なぜ、流域の連携が必要なのか？

流域連携はどのようにして形成され、どのような効果を発揮できるのか？

住民と住民団体が連携を強めていくための要件や条件づくりには、どのようなことが求められるのか？

流域連携は具体的にどのようなことから手がけ、積み重ねていけばよいのか？

そのために必要な組織や仕組みはどのようなものか？

上流と下流域の連携がなぜ必要なのか？ どのように具体化するべきか？

流域の住民と自治体は何を、どのように連携していくべきなのか？

河川管理者と流域自治体、流域住民の連携課題は何か？

こうしたテーマを議論し、提言がうたう「流域連携」の基礎づくりと連携組織の立ち上げを促していく。

3. プログラム

◇オープニング 組曲「武庫川」(小学生の合唱)

◇基調講演 河合雅雄氏 (丹波の森公苑名誉理事長、人と自然の博物館名誉館長)

「川を育てる、川に育てられる」(仮題)

◇基調報告 「武庫川づくりへ、流域連携をどう進めるか」

(武庫川流域委員会の 8 月提言の中の「流域連携の推進について」簡単な紹介)

委員長の報告に加えて、伊藤委員が制作する「これが武庫川だ」(パワーポイント映像構成)

◇パネル討議 「流域連携による川づくりをどう進めるか」

パネリスト (全国各地の実践例から学ぶ、流域連携とは何か?)

吉村伸一氏 (流域計画室代表) = 全国各地の川づくり。2001/10 第 1 回武庫川シンポも

蔵治光一郎氏 (東京大学農学生命科学研究科付属愛知演習林)

新見幾男氏 (矢作川漁業協同組合理事, 矢作新報社社長) = 愛知県矢作川での試み

横山 正氏 (千種川圏域清流づくり委員会の活動、行政と流域住民の協働)

コーディネーター

松本 誠 (武庫川流域委員会委員長)

ほかに、フロアーコメンテーターとして武庫川流域委員会メンバー

4. 会場 ①西宮 ②宝塚 ③尼崎 ④伊丹 (⑤神戸)

(開催地の市長等の挨拶?)

5. 主催 武庫川流域委員会&兵庫県武庫川総合治水推進会議

(開会 or 閉会のあいさつ 推進会議座長 or 知事)